

第4章

住生活に関する市民意向

Chapter IV

- ◆ 4-1 市民意識調査
- ◆ 4-2 市民アンケート調査

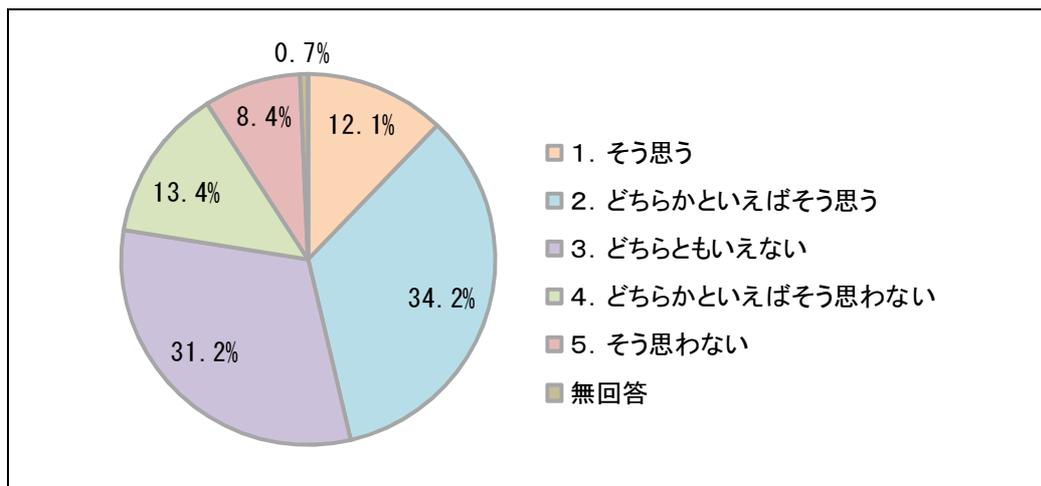
第4章 住生活に関する市民意向

4-1 市民意識調査

平成20年度より実施している「市民意識調査」の最新版（平成22年10月）の中から、南丹市民の住生活に関連する意向を把握します。

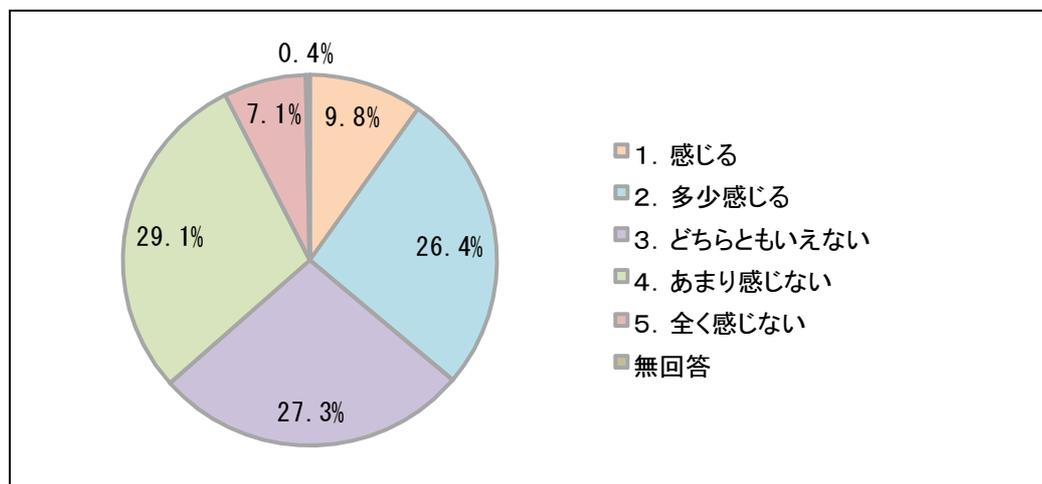
1) 南丹市の住みやすさ

- ・「南丹市が住みやすいまちだと思うか」という問いに対して、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と答えた方が46.3%なのに対し、「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」と答えた方は21.8%となっており、満足度が高い傾向がみられます。
- ・地域別では、園部地域、美山地域の満足度が高く、八木地域、日吉地域の満足度が低い傾向がみられました。また、年代別では、10歳代の満足度が低くなっています。
- ・満足度が低い理由としては、「交通の便が悪い」、「通学・買い物の便が悪い」、「店がない」、「駅周辺に何もなし」などが挙がっています。特に公共交通の不便さを指摘する意見は多く、「住みにくい」とする大きな原因の1つではないかと考えられます。



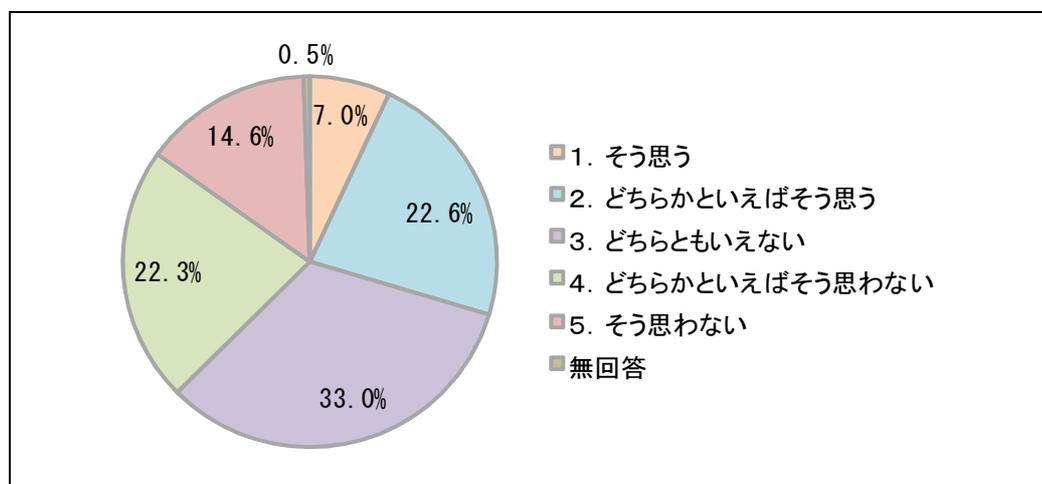
2) 南丹市の魅力

- ・「南丹市が魅力あるまちだと感じるか」という問に対して、「感じる」または「多少感じる」と答えた方が 36.2%、「全く感じない」または「あまり感じない」と答えた方が 36.2%となっており、意見が二つに分かれた結果となりました。
- ・魅力のある理由として、「自然が豊かだから」と考える人がある反面、「自然は多いが他にこれといった魅力はない」という意見のように、見方が異なることにより結果がわかれたのではないかと考えられます。



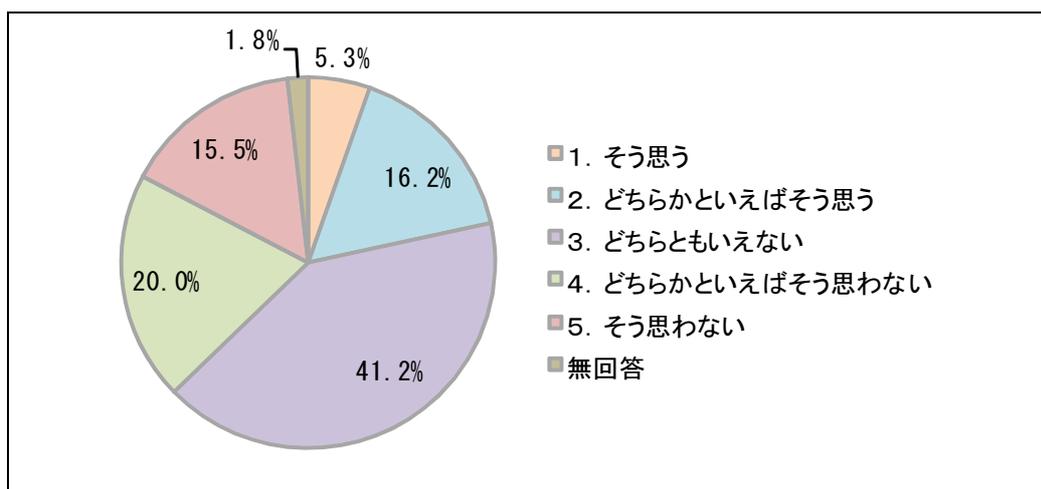
3) 高齢者の暮らし

- ・「南丹市が高齢者にとって安心して暮らせるまちだと思うか」という問に対して、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答えた方が 29.6%なのに対し、「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」と答えた方は 36.9%と、7.3 ポイント多くなっています。
- ・「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」との回答が多かった理由として、交通の便の悪さを指摘する意見が数多くあることから、身近な生活の足を確保する事に加え、歩いて暮らせるまちづくりに取り組むことも重要となっています。



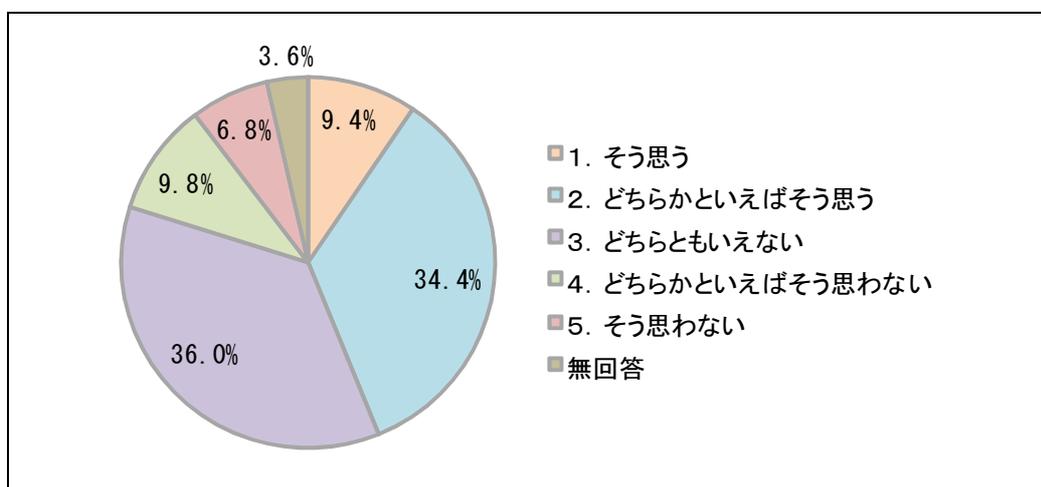
4) 障がい者の暮らし

- ・「南丹市が障害のある方にとって、安心して暮らせるまちだと思うか」という問いに対して、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答えた方が 21.5%なのに対し、「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」と答えた方は 35.5%と、14 ポイント多くなっています。
- ・「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」との回答が多かった理由として、駅などバリアフリーになっていない施設が多いという意見が多く寄せられており、公共施設や身近な生活空間のバリアフリー化が求められていることが伺えます。



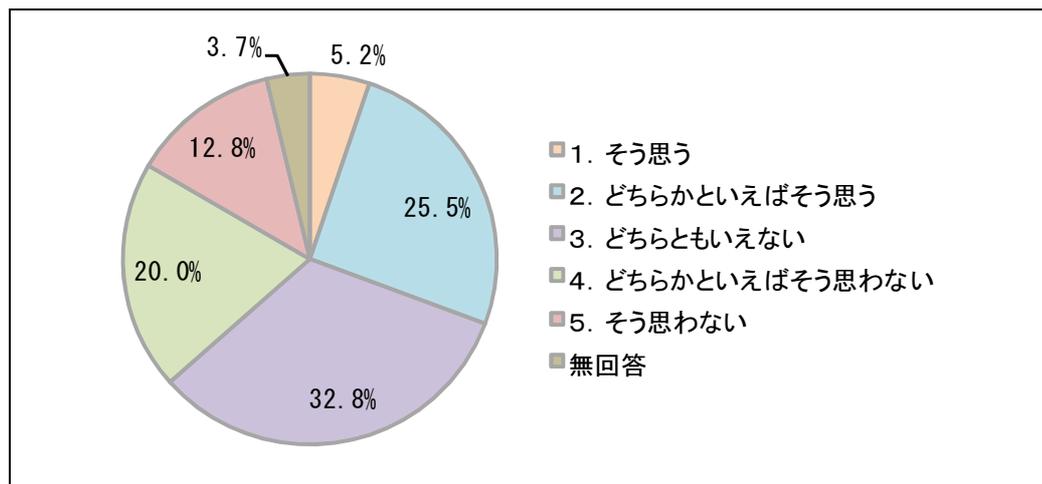
5) 子育て世帯の暮らし

- ・「南丹市が、安心して子育てのできるまちだと思うか」という問いに対して、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答えた方が 43.8%なのに対し、「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」と答えた方は 16.6%となっており、満足度が高い傾向がみられます。
- ・安心できる理由としては、「市の助成制度がある」、「自然の体験ができる」という意見が多くありました。
- ・一方で、「子育てに対する市の援助はあるが、削減された」との意見が多くみられました。また、金銭的な支援とは別に、保育所のサービスや子育てに対するサポート、また通学路などの環境整備を求める声が多くありました。



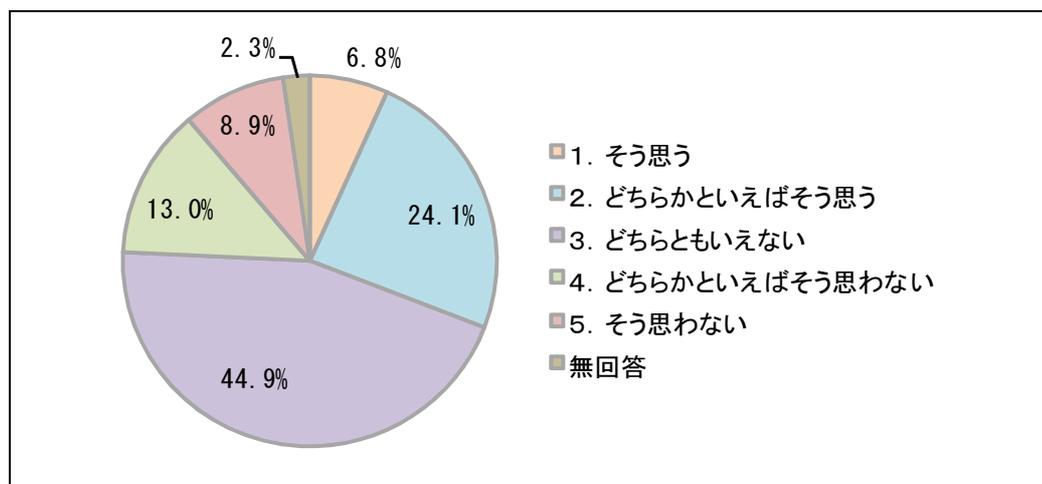
6) 子育てに対する支援

- ・「お住まいの地域において、地域全体で子育てを支援する仕組みが整っていると思うか」という問に対して、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答えた方が 30.7% なのに対し、「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」と答えた方は 32.8% となっており、意見が二つに分かれた結果となりました。
- ・一方で、「地域で子育てを支援する仕組みを知らない」、「分からない」という意見が多くみられたことから、今後は、市が実施している「地域子育てサポート制度」などの取組に関する情報発信に重点的に取り組む必要があると考えられます。



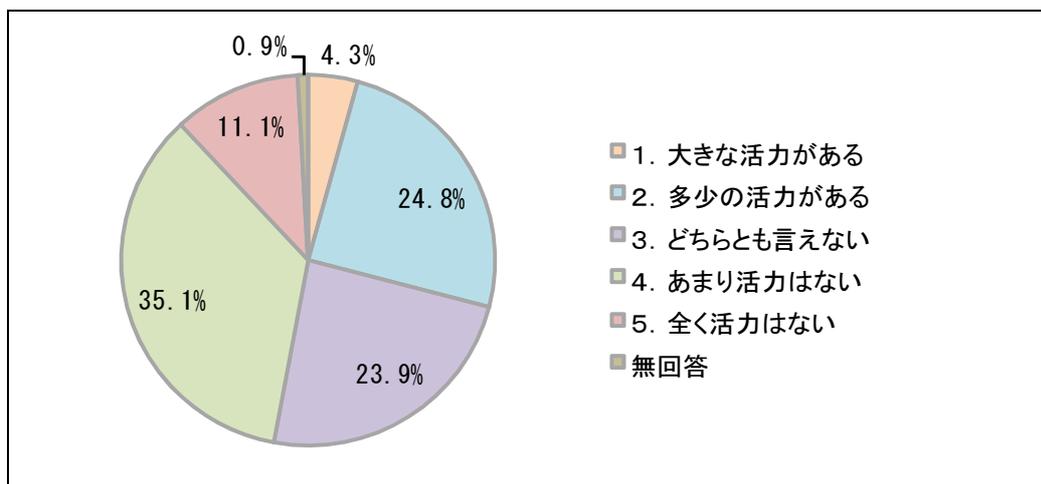
7) 防災面の安心感

- ・「南丹市は、防災の面で安心して暮らせるまちだと思うか」という問に対して、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答えた方が 30.9% なのに対し、「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」と答えた方は 21.9% となっており、満足度が高い傾向がみられます。
- ・安心して暮らせる要因としては、消防団の活躍が多く取り上げられています。



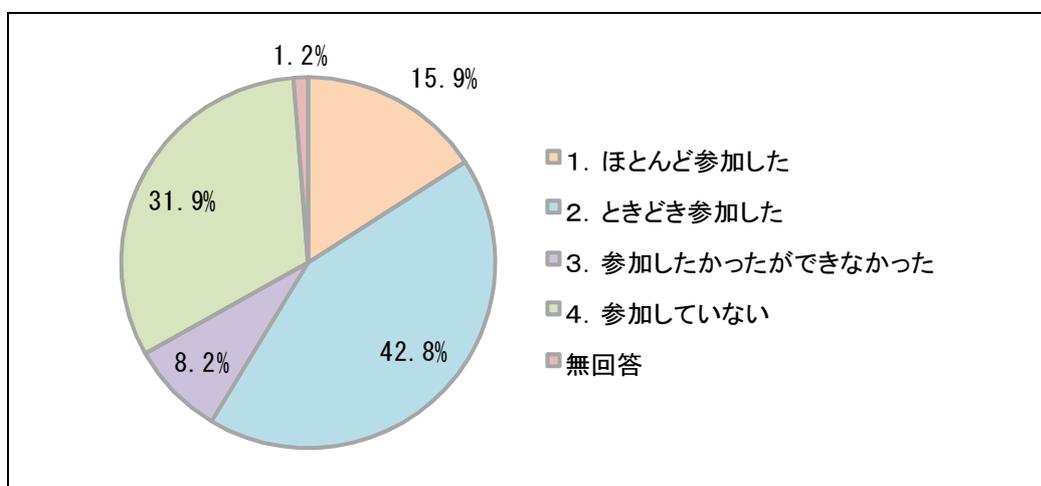
8) 地域の活力

- ・「住んでいる地域に活力があると思うか」という問に対して、「大きな活力がある」または「多少の活力がある」と答えた方が 29.1%なのに対し、「あまり活力はない」または「全く活力はない」と答えた方は 46.2%と、全体の半分近くを占めています。
- ・活力がない理由としては、地域や集落の「高齢化」、「過疎化」を理由としてあげる人が多く、次に「住民の意識がなかなか揃わない」、「年代によって考え方が異なる」など、活動の問題点をあげる方が多くありました。



9) 地域活動への参加

- ・「過去1年間で、地域における様々な活動や、市民における自主的な活動に参加したか」という問に対しては、「ほとんど参加した」または「ときどき参加した」と回答した方が 58.7%と、6割近くの方が地域活動に参加されています。
- ・40～50 歳代の参加率は、概ね7割以上となっている一方で、10～20 歳代の参加率は低くなっています。
- ・理由から分析すると、参加されている活動の多くは自治会や子供会の活動がほとんどで、40 歳代から 60 歳代の方が各種団体の役職を持っておられることが、その理由だと考えられます。

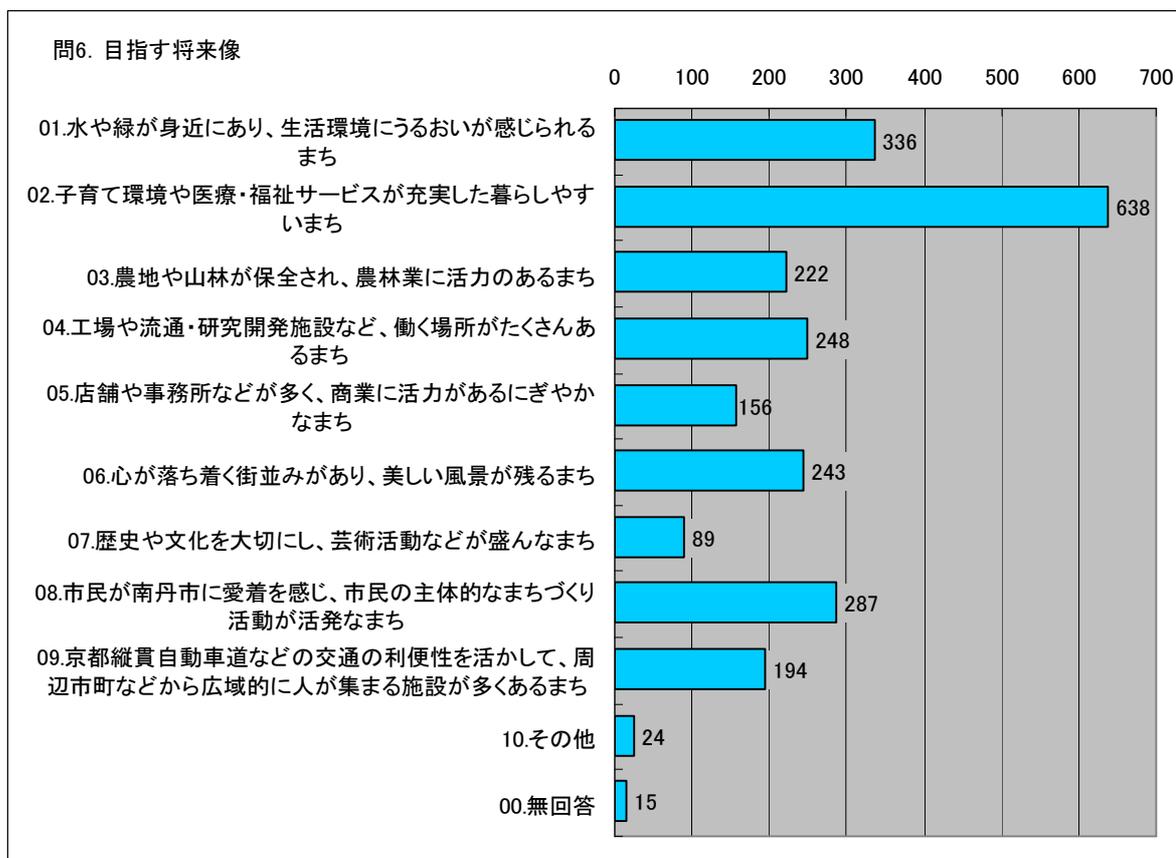


4-2 市民アンケート調査

「南丹市都市計画マスタープラン」及び「南丹市緑の基本計画」の策定段階において、南丹市民の意見を反映するために実施された市民アンケート調査（平成21年3月）を用いて、南丹市民の住生活に関連する意向を把握します。

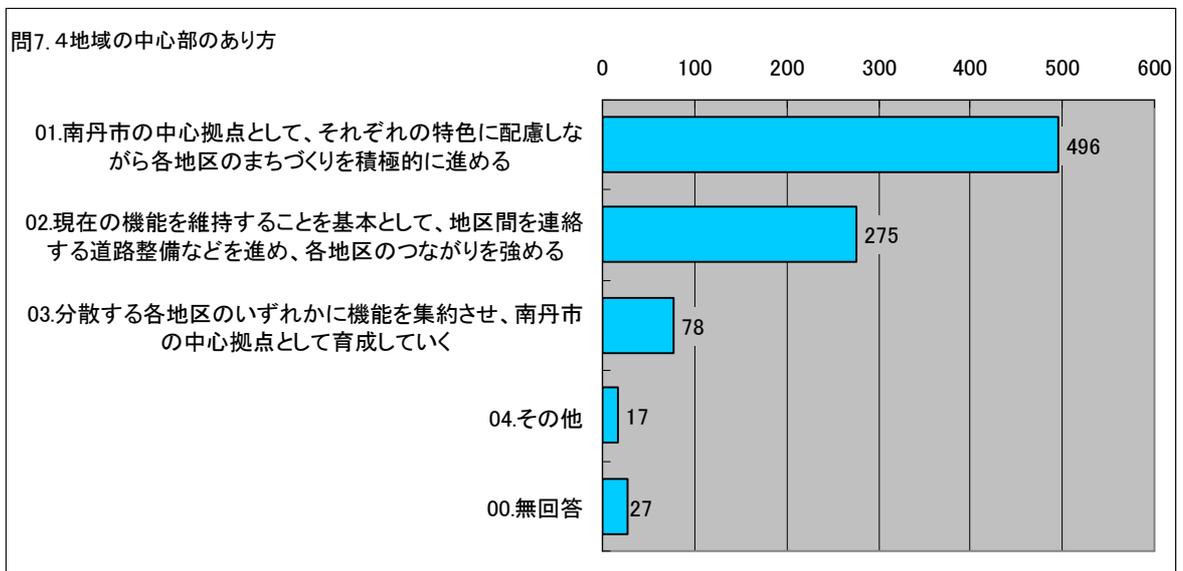
1) 南丹市が目指す将来像

- ・「02. 子育て環境や医療・福祉サービスが充実した暮らしやすいまち」（71.4%）が最も多く、次いで「01. 水や緑が身近にあり、生活環境にうるおいが感じられるまち」（37.6%）、「08. 市民が南丹市に愛着を感じ、市民の主体的なまちづくり活動が活発なまち」（32.1%）の順となっています。
- ・年齢別では、10歳代を除く各年代で「02. 子育て環境や医療・福祉サービスが充実した暮らしやすいまち」が最も多く選択されており、年代が高くなるにつれて「08. 市民が南丹市に愛着を感じ、市民の主体的なまちづくり活動が活発なまち」を選択する割合が高くなる傾向がみられます。
- ・地域別では、全ての地区で「02. 子育て環境や医療・福祉サービスが充実した暮らしやすいまち」が最も多く選択されています。第2位、第3位も全体とほぼ同様の結果ですが、日吉地域、美山地域では「03. 農地や山林が保全され、農林業に活力のあるまち」も多く選択されています。



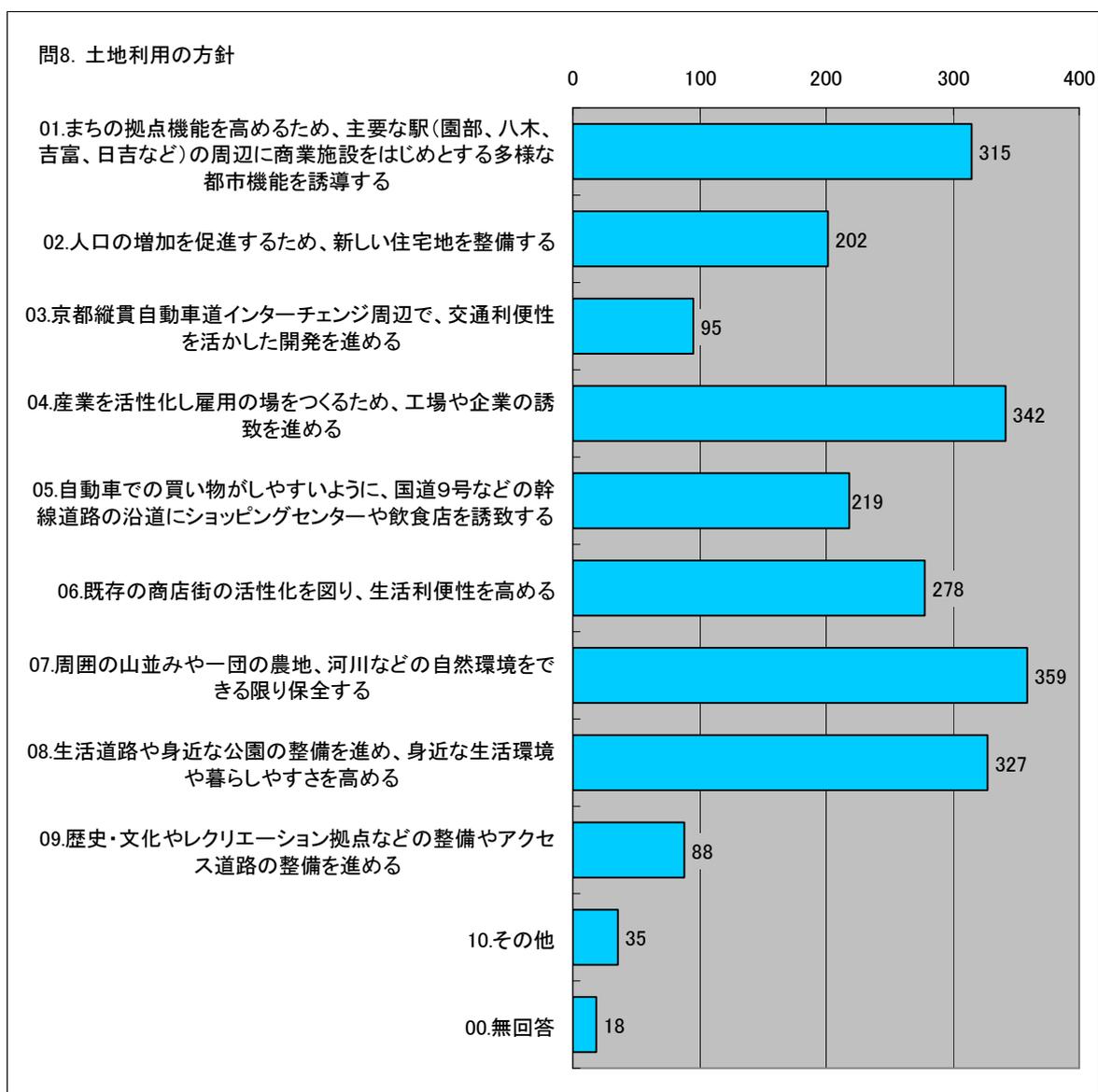
2) 4地域の中心部のあり方

- ・「01. 南丹市の中心拠点として、それぞれの特色に配慮しながら各地区のまちづくりを積極的に進める」(55.5%) を選択する方が半数以上を占めており、次いで「02. 現在の機能を維持することを基本として、地区間を連絡する道路整備などを進め、各地区のつながりを強める」(30.8%) が約3割を占めています。
- ・年齢別では、全ての年代で「01. 南丹市の中心拠点として、それぞれの特色に配慮しながら各地区のまちづくりを積極的に進める」が最も多く選択されています。また、10歳代、20歳代では「03. 分散する各地区のいずれかに機能を集約させ、南丹市の中心拠点として育成していく」が他の年代に比べて多く選択されています。
- ・地域別では、園部地域、八木地域の地区では「01. 南丹市の中心拠点として、それぞれの特色に配慮しながら各地区のまちづくりを積極的に進める」が最も多く選択されているのに対して、日吉地域、美山地域では「02. 現在の機能を維持することを基本として、地区間を連絡する道路整備などを進め、各地区のつながりを強める」が最も多くみられます。



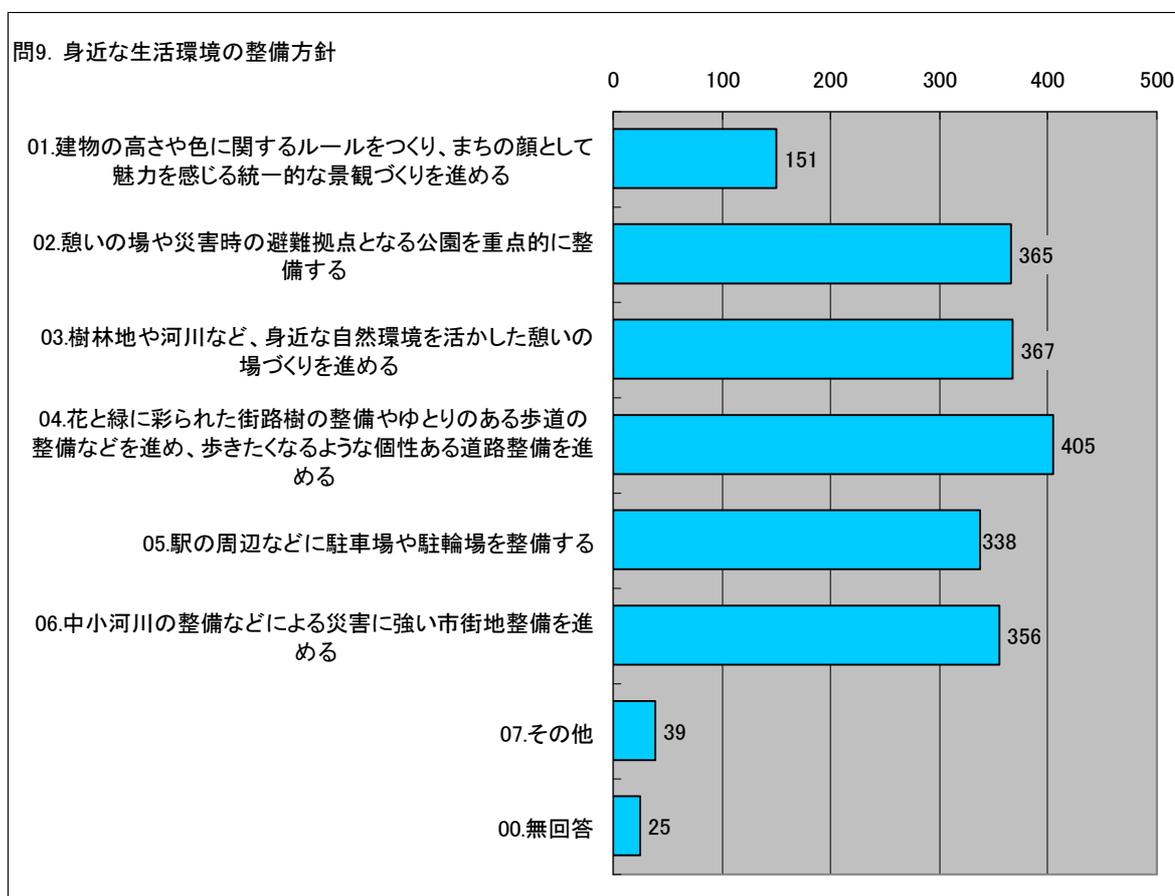
3) 土地利用の方針

- ・「07. 周囲の山並みや一団の農地、河川などの自然環境をできる限り保全する」(40.2%)が最も多く選択されており、次いで「04. 産業を活性化し、雇用の場をつくるため、工場や企業の誘致を進める」(38.3%)、「08. 生活道路や身近な公園の整備を進め、身近な生活環境や暮らしやすさを高める」(36.6%)の順となっています。
- ・年齢別では、全ての年代で「07. 周囲の山並みや一団の農地、河川などの自然環境をできる限り保全する」が、多く選択されています。また、「04. 産業を活性化し、雇用の場をつくるため、工場や企業の誘致を進める」は年代が高くなるに従って多く選択される傾向にあります。
- ・地域別では、郊外部で「07. 周囲の山並みや一団の農地、河川などの自然環境をできる限り保全する」、「08. 生活道路や身近な公園の整備を進め、身近な生活環境や暮らしやすさを高める」などが多く選択される傾向にあります。



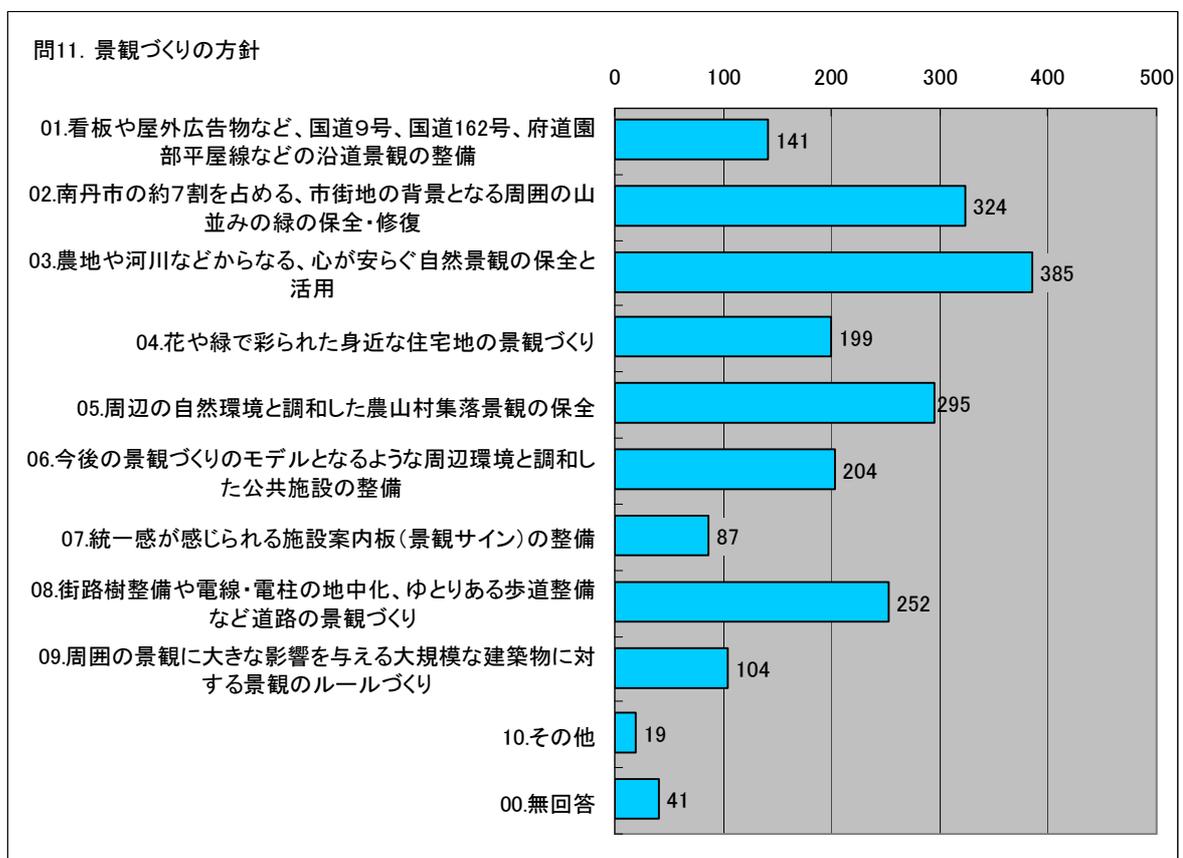
4) 身近な生活環境の整備方針

- ・「04. 花と緑に彩られた街路樹の整備やゆとりのある歩道の整備などを進め、歩きたくなるような個性ある道路整備を進める」(45.4%) が最も多く選択されていますが、「01. 建物の高さや色に関するルールをつくり、まちの顔として魅力を感じる統一的な景観づくりを進める」(16.9%) を除く他の項目についても、約4割の方が選択しています。
- ・年齢別では、年代が高くなるに従って、「02. 憩いの場や災害時の避難拠点となる公園を重点的に整備する」、「06. 中小河川の整備などによる災害に強い市街地整備を進める」を選択する割合が高くなっています。
- ・地域別では、郊外部で「03. 樹林地や河川など、身近な自然環境を活かした憩いの場づくりを進める」を選択する割合が高く、市街地部では「04. 花と緑に彩られた街路樹の整備やゆとりのある歩道の整備などを進め、歩きたくなるような個性ある道路整備を進める」を選択する割合が高くなっています。



5) 景観づくりの方針

- ・「03. 農地や河川などからなる、心が安らぐ自然景観の保全と活用」(43.1%)、「02. 南丹市の約7割を占める、市街地の背景となる周囲の山並みの緑の保全・修復」(36.3%)、「05. 周辺の自然環境と調和した農山村集落景観の保全」(33.0%)の順で多く、いずれも3割を超える方が選択しています。
- ・年齢別では、60歳代、70歳以上の年代で、「03. 農地や河川などからなる、心が安らぐ自然景観の保全と活用」、「05. 周辺の自然環境と調和した農山村集落景観の保全」を選択する割合が高くなっています。
- ・地域別では、全体とほぼ同様な傾向になっており、園部地域の市街地など、一部の地区を除いて「03. 農地や河川などからなる、心が安らぐ自然景観の保全と活用」を選択される方が最も多くなっています。



6) 災害に強いまちづくりの方針

- ・「04. 安全な避難場所や避難施設の整備・充実」(19.9%)が最も多く選択されており、次いで「01. 自然災害を防止・軽減する治山治水事業の推進」(16.9%)、「02. 河川改修や遊水池の整備など水害対策の強化」(11.4%)の順となっています。
- ・全体とほぼ同様な傾向になっており、70歳以上を除く各年代で「04. 安全な避難場所や避難施設の整備・充実」を選択される方が最も多くなっています。また、70歳以上では、「01. 自然災害を防止・軽減する治山治水事業の推進」(19.2%)を選択される方が最も多くなっています。
- ・市街地では「04. 安全な避難場所や避難施設の整備・充実」を選択する方が多く、郊外部や山間部では「01. 自然災害を防止・軽減する治山治水事業の推進」、「06. 除雪や融雪など、総合的な雪対策の充実」を選択される方が多くなっています。

